

美術館だより

開館記念展 第二部 「ミロ回顧展」 予告

県立美術館では、開館記念展第二部として「ミロ回顧展」を開催します。

ジョアン・ミロは、ピカソやマチスなどと並んで、二〇世紀の最も重要な画家のひとりです。

ミロは一八九三年、スペインのバルセロナ近くに生まれました。はじめフオービズムやキュビズムの影響を強く受け、スペイン人特有の夢と詩情の漂うような作品を描いた後、次第にシュルレアリスムの方向に転じ、クレールの

刺激などもとりいれて独自の作風を形成しました。

きわめて高い造型性が感じられるものからユーモラスな作品など絵画ばかりでなく版画・彫刻・陶器などにおいても多才な活躍を示しました。一九七〇年には、来日して大阪万国博覧会のために陶板による大壁画を制作し、わが国でも多くの人々から親しまれていましたが、昨年十二月二十五日惜しくも他界してしまいました。

本展は、初期バルセロナ時代から晩



ミロの作品「女」



アトリエのミロ

年のマジョルカ島での制作に至るミロの作品——絵画・版画・彫刻・陶器など一七〇点余——を展覧する大規模なミロ回顧展です。またミロの親友の写真家カタラ・ロカ氏によるアトリエでのミロの写真をあわせて展示し、さらにミロ追悼コーナーを設けて、ミロ芸術をいっそう身近に感じられる企画となっています。

会期 九月一日⑤～九月三〇日⑩
午前九時三〇分～午後五時

(入館は四時三〇分まで)

月曜休館(祝日の場合はその翌日)
観覧料 一般・大学生 八〇〇円
高校生 六〇〇円

小・中学生 四〇〇円

(団体割引有り)

所蔵作品紹介 ①

「ブルターニュの子供」

ポール・ゴーギャン

ゴーギャン(一八四八～一九〇

三)は、株式仲買店に勤務するかわら、趣味として絵を描き始めました。ピサロと知りあい、はじめは印象派風の絵を描きました。

三五歳の時、絵画に専念するため職をすてて制作に打ち込みます。

しかし思うように絵は売れず、ついには家族とも別れてしまいます。

一時アルルでゴッホと共同生活を試みますが、これも破局を迎えます。

文明社会を嫌ったゴーギャンは、未開の社会に対する憧れから

一八九一年タヒチに渡りました。

一八九三年一時フランスに帰国しましたが、一年後再びヨーロッパを後にし、タヒチ島のちにドミニカ島に住み、絵画・木版画・彫刻などを制作しました。

表紙裏下段の作品は、タヒチを訪れる前のブルターニュ時代のもので、印象派から離れて平面的な

彩色による装飾的な画風を確立しはじめる時期の特徴がよく表わ

れています。

(制作一八八九年、紙・水彩・パステル、二六×三七cm)